2027年3月期 第2四半期(中間期)
決算説明資料

イメージ情報開発株式会社

2026年11月12日

東京証券取引所 グロース市場　証券コード:3803

目次

1 エグゼクティブサマリー P4

2 2027年3月期 中間期業績 P7

3 2027年3月期 通期連結業績予想 P13

4 成長戦略・M&Aの推進 P16

5 株主還元方針 P20

Copyright © Image Information Inc.

エグゼクティブサマリー

1 エグゼクティブサマリー

2 2027年3月期 中間期業績

3 2027年3月期 通期連結業績予想

4 成長戦略・M&Aの推進

5 株主還元方針

Copyright © Image Information Inc.

2027年3月期 第2四半期(中間期) エグゼクティブサマリー

第2四半期(7～9月)に経常黒字化。M&A 2件を実行し、2027年3月期は営業・経常・最終の全段階利益で黒字転換を見込む。

業績改善

2Q(7～9月)会計期間の経常損益

+6 百万円

1 2Q単独で経常黒字化

前年同期(2025年7～9月)の経常損失48百万円から黒字に転換。営業損益もほぼ収支均衡(△0百万円)まで改善し、下期は営業黒字を見込む。

M&Aの推進

実行したM&A(2026年10月)

2 件

2 ロールアップM&Aが始動

ディグロスのCRM支援事業を譲受、IID大分(旧クラッド大分)を子会社化。下期売上高に約380百万円を上乗せ。

通期業績・株主還元

親会社株主に帰属する当期純利益(予想)

33 百万円

3 黒字転換と株主還元

通期連結業績予想を初開示(前期は△259百万円)。株主還元策として株主優待制度の導入を検討。

※ 当2Qは個別の中間会計期間－第1四半期(個別)、前年同期(2025年7～9月)は子会社を含む連結実績(中間期－第1四半期)から算出した参考値です(監査・レビュー対象外)。
※ 下期売上高への上乗せ額は社内の着地見込みです。

Copyright © Image Information Inc.

経営改革の進捗 — 4つの柱がすべて実行段階へ

第1四半期時点で実行済みの①～③に加え、当第2四半期以降、④M&A・提携による非連続成長が実行段階に入った。

改革の柱	主な実行内容	状況
① 経営体制・ガバナンスの刷新	2026年6月に新経営体制が発足。10月に第2回新株予約権（有償ストック・オプション）を発行し、株価下落リスクを株主と共有する設計を導入	実行済み
② 選択と集中	シナジー未発現の子会社3社を譲渡（2026年3月31日）。イメージ情報システムを吸収合併（2026年8月1日）し、2社体制を解消	実行済み
③ コスト構造改革	退職金・賞与の人事制度改革を断行。1Qの販管費は前年同期比△30%。2Q会計期間は経常黒字化	実行済み
④ M&A・提携による非連続成長	fonfunと業務提携（7月21日）。ディグロスのCRM支援事業を譲受（10月1日）、クラッド大分（現IID大分）の全株式を取得（10月23日）	今期より実行

※ いずれも開示済みの事項です。

Copyright © Image Information Inc.

2027年3月期 中間期業績

1 エグゼクティブサマリー

2 **2027年3月期 中間期業績**

3 2027年3月期 通期連結業績予想

4 成長戦略・M&Aの推進

5 株主還元方針

Copyright © Image Information Inc.

中間期業績ハイライト（2026年4月～9月・非連結）

8月の吸収合併により、当中間期は非連結で開示。
合併以降は旧子会社の事業を取り込み、第2四半期会計期間は経常黒字（6百万円）を確保。

中間期業績（単位：百万円）

項目	当中間期実績
売上高	79
売上総利益	30
販売費及び一般管理費	57
営業損益	△27
経常損益	△16
中間純損益	△10
1株当たり中間純損益（円）	△3.07

財務の状況（2026年9月末）

現金及び預金

775 百万円

M&Aの実行余力を確保

自己資本比率

69.0 %

前期末 86.6%（個別）

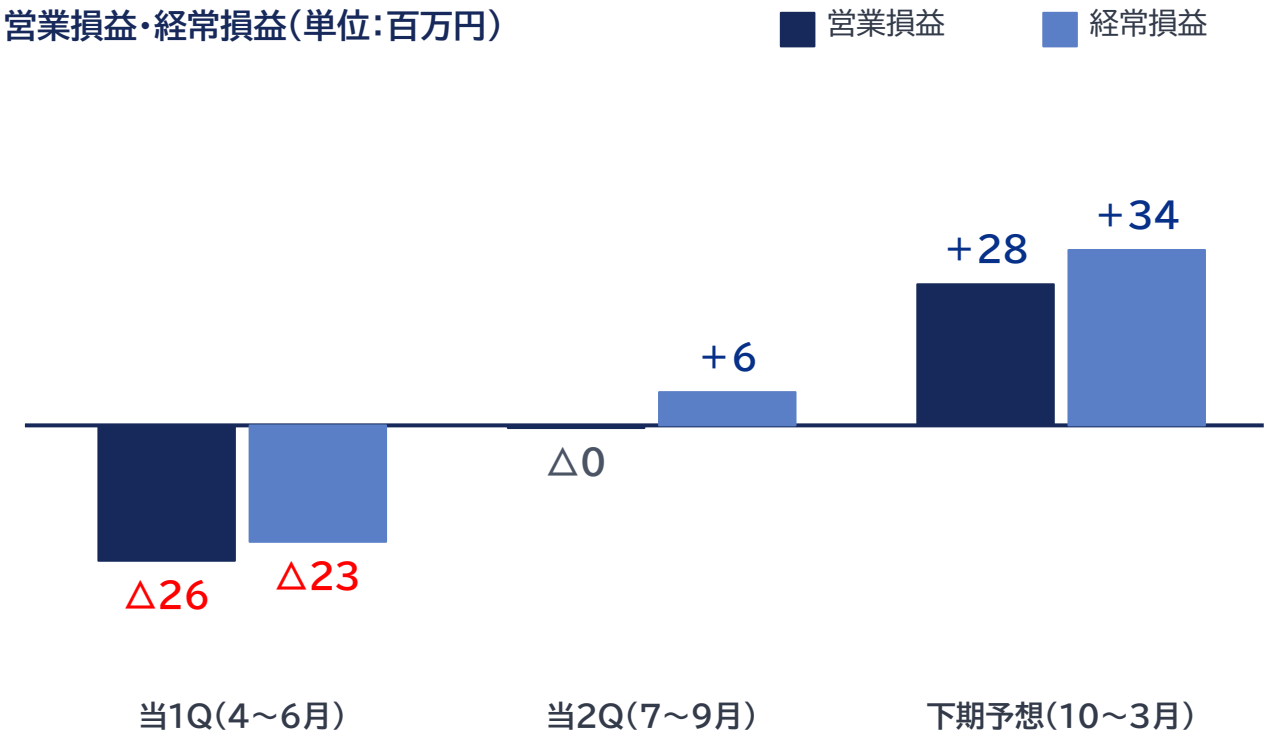
※ 連結子会社がなくなったため非連結で開示しており、前年同期（連結）との比較は行っていません。前期末は個別の数値です。百万円未満切捨て。

Copyright © Image Information Inc.

四半期損益の推移 ― 第2四半期に経常黒字化

コスト構造改革と合併効果で、四半期の営業損益は1Q△26百万円から2Q△0百万円へ改善し、経常損益は2Qに黒字化。下期はM&Aの寄与で営業利益28百万円を見込む。

営業損益・経常損益（単位：百万円）



改善のドライバー

1 **コスト構造改革の定着**
人事制度改革・管理コスト削減の効果が第2四半期から本格的に寄与。

2 **2社体制の解消**
8月の吸収合併で、重複していた管理機能を一本化。

3 **取得事業の利益取込み**
下期はCRM支援事業とIID大分の利益が加わる見込み。

※ 1Qは当社個別（合併前）。2Qは個別の中間会計期間－第1四半期（個別）で算出（イメージ情報システムの事業は8月以降を含む）。いずれも監査・レビュー対象外の参考値。
※ 下期予想＝通期業績予想－上期実績（個別）。

Copyright © Image Information Inc.

セグメント別業績

ITソリューション、BPO・サービスの両セグメントで利益を確保。
下期はBPO・サービスが取得事業の加入により当社最大のセグメントとなる見込み。

ITソリューション

売上高	セグメント利益
61 百万円	25 百万円

- 7月までは当社単体で前年並みに推移。
- 8月の合併以降はイメージ情報システムの事業を取り込み、前年を大きく上回る。
- 内訳：コンサル・開発29百万円、保守・運用29百万円、その他1百万円

BPO・サービス

売上高	セグメント利益
18 百万円	4 百万円

- BPO（業務アウトソーシング）及び決済代行等の各種サービス。
- 合併により、イメージ情報システムが担っていた事業を当社で継続。
- 下期はCRM支援事業・IID大分が加わり、事業規模が大きく拡大。

※ 売上高は外部顧客への売上高。百万円未満切捨て。

Copyright © Image Information Inc.

中間純損益の内訳

合併に伴う特別利益と特別損失はほぼ相殺し、中間純損失は10百万円。
いずれも資金の流出を伴わない一過性の損益。

中間純損益の内訳（単位：百万円）

項目	金額
営業損失	△27
営業外損益（主に貸倒引当金戻入額8）	＋10
経常損失	**△16**
特別利益：関係会社事業損失引当金戻入額	＋53
特別損失：抱合せ株式消滅差損	△49
その他の特別損益・法人税等	＋2
中間純損失	**△10**

合併に伴う特別損益

1 イメージ情報システムの吸収合併（8月1日）

個別決算で、特別利益53百万円と特別損失49百万円を計上。

2 差引の影響は＋4百万円

合併前に計上していた引当金の戻入れと、子会社株式の消滅差損がほぼ見合う。

3 資金の流出を伴わない一過性の損益

翌期以降の業績には影響しない。

※ 百万円未満切捨てのため、合計が一致しない場合があります。

Copyright © Image Information Inc.

財政状態・キャッシュ・フロー

合併により現預金(個別)は775百万円に増加。10月のM&A 2件(取得対価計370百万円)は手元資金で充当し、引き続きM&Aの実行余力を確保。

貸借対照表(単位:百万円)

項目	2026/3末	2026/9末	増減
現金及び預金	670	**775**	+104
資産合計	729	**901**	+172
負債合計	98	**279**	+181
純資産合計	631	**621**	△9
自己資本比率	86.6%	**69.0%**	△17.6pt

キャッシュ・フロー(単位:百万円)

項目	当中間期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△102
投資活動によるキャッシュ・フロー	+8
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1
合併による現金及び現金同等物の増加	+200
現金及び現金同等物の中間期末残高	**775**

※ 百万円未満切捨て。
※ 資産・負債の増加は主に吸収合併によるもの。2026/3末は個別の数値です(前期の連結開示では現金及び預金820百万円、自己資本比率63.0%)。

Copyright © Image Information Inc.

2027年3月期 通期連結業績予想

1 エグゼクティブサマリー

2 2027年3月期 中間期業績

3 **2027年3月期 通期連結業績予想**

4 成長戦略・M&Aの推進

5 株主還元方針

Copyright © Image Information Inc.

2027年3月期 通期連結業績予想

M&Aの主要案件が完了し、通期連結業績予想を初めて開示。
営業・経常・最終の全段階利益で黒字転換を見込む。

FY2027/3(2027年3月期) 通期連結業績予想

売上高

当期予想

678 百万円

前期実績　731 百万円

子会社3社の連結除外の影響

営業利益

当期予想

0 百万円

前期実績　△175 百万円

黒字転換(+175百万円)

経常利益

当期予想

18 百万円

前期実績　△195 百万円

黒字転換(+213百万円)

親会社株主に帰属する当期純利益

当期予想

33 百万円

前期実績　△259 百万円

黒字転換(+292百万円)

(単位:百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益(円)
2027年3月期 予想	678	0	18	33	10.04
2026年3月期 実績	731	△175	△195	△259	△119.39
増減額	△53	+175	+213	+292	+129.43

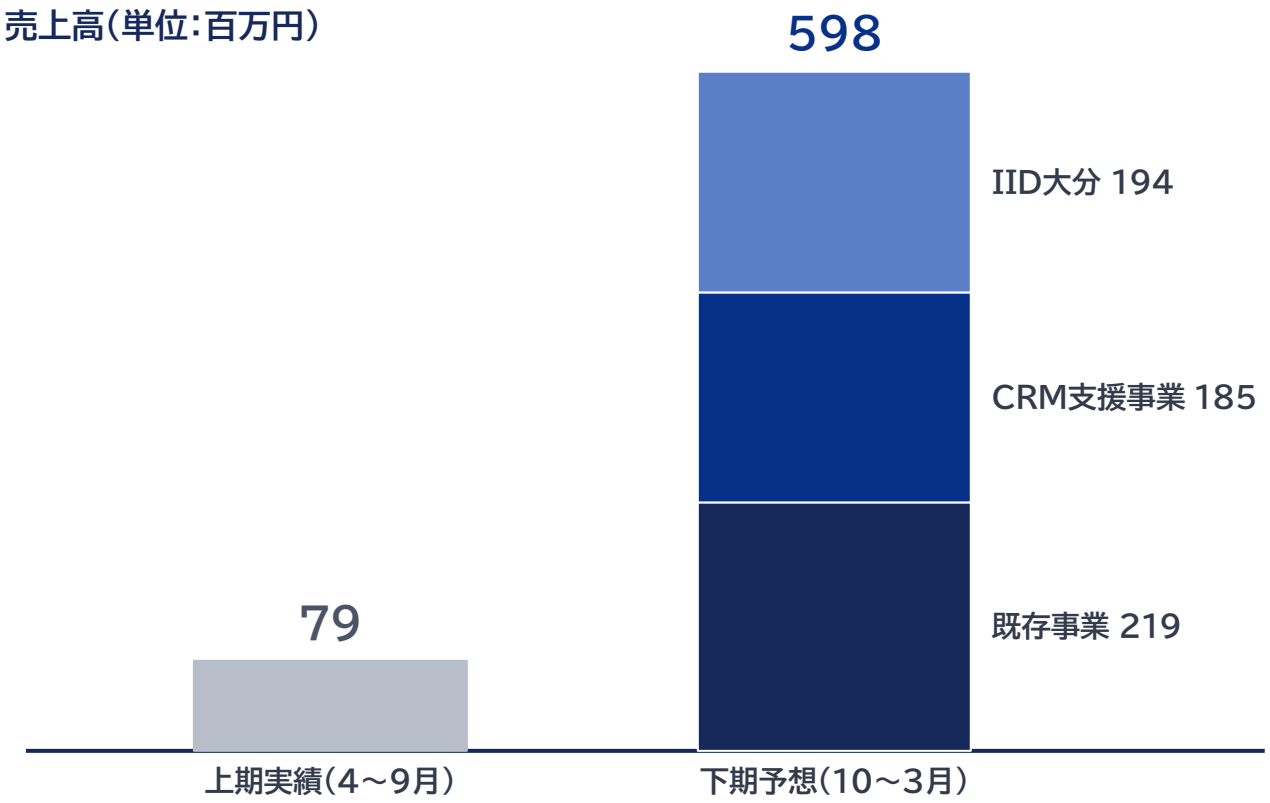
※ 出典:本日公表の「2027年3月期通期連結業績予想の公表に関するお知らせ」。百万円未満切捨て。

Copyright © Image Information Inc.

上期実績と下期予想 — M&Aの寄与で下期は大きく伸長

下期はCRM支援事業・IID大分の6か月分が加わり、売上高が大きく拡大。
営業損益は上期△27百万円から下期＋28百万円へ転換する見込み。

売上高（単位：百万円）



上期実績と下期予想（単位：百万円）

項目	上期実績	下期予想	通期予想
売上高	79	598	678
営業損益	△27	＋28	0
経常損益	△16	＋34	18
当期純損益	△10	＋43	33

※ 下期予想＝通期業績予想－上期実績（千円単位で算出し百万円未満切捨て。合計が一致しない場合があります）。上期実績は非連結。
※ 下期の事業別内訳は社内の着地見込み（2026年10月28日時点）に基づく参考値です。

Copyright © Image Information Inc.

成長戦略・M&Aの推進

1 エグゼクティブサマリー

2 2027年3月期 中間期業績

3 2027年3月期 通期連結業績予想

4 **成長戦略・M&Aの推進**

5 株主還元方針

Copyright © Image Information Inc.

中期経営計画「プロジェクト イマージュ」の目標

「AI×BPO」による事業構造の転換と、ロールアップM&Aによる非連続な成長で、
2029年3月期に売上高50億円・EBITDA5億円・時価総額100億円を目指す。

FY2029/3（2029年3月期）目標

時価総額	連結売上高	EBITDA
100 億円	50 億円	5 億円

3つの重点施策

1 AI-BPO転換

既存BPO業務にAIを実装して原価を削減し、BPOの現場から見えた課題をDX・SI提案へつなげる。

2 AI-BPaaS

AIエージェントと人の協働サービスを「月額＋従量課金」のストック型で提供し、収益構造を転換する。

3 ロールアップM&A

後継者不在等のレガシー領域を中心に3年間で10件以上を買収。当期は2件を実行。

※ 2026年9月30日公表の中期経営計画より。数値は目標値であり、達成を約束するものではありません。

Copyright © Image Information Inc.

M&Aの実行 ― ロールアップM&Aの第1弾・第2弾

中期経営計画の公表直後から、BPO・サービス領域で2件のM&Aを実行。
CRMの運営基盤と地方のオペレーション拠点を獲得し、事業規模を大きく拡大。

第1弾　事業譲受（2026年10月1日）

株式会社ディグロスのCRM支援事業

事業内容	コールセンター運営による営業支援・CRM支援
事業規模	売上高494百万円（2026年5月期）
譲受価額	170百万円（現金）
ねらい	既存事業とのシナジー、fonfunのAI開発リソースを活用した早期の収益性向上

第2弾　株式取得（2026年10月23日）

IID大分株式会社（旧 株式会社クラッド大分）

事業内容	大分市でのコンタクトセンター・事務処理業務の受託運営（BPO）
取得割合	100%（完全子会社。11月12日付で商号変更）
取得価額	200百万円（現金）
ねらい	地方オペレーション拠点の獲得。 譲渡元クラッドとの業務提携で既存取引を継続

※ 出典：2026年9月28日・10月20日、11月12日公表の開示。

Copyright © Image Information Inc.

M&A戦略 — 規律を守りながら3年で10件以上へ

「黒字・回収5年以内・EBITDA倍率5倍以内」の規律を守り、
デット調達中心で希薄化を抑えながら、3年間で10件以上のM&Aを目指す。

M&A実行件数（累計）

2 件 / 10件以上



中期経営計画の公表（9月30日）から約1か月で2件を実行

投資規律

1 黒字事業
取得時点で利益を生む事業に限定

2 投資回収5年以内
短期で回収できる案件を選別

3 EBITDA倍率5倍以内
価格規律を徹底

4 デット調達中心
株式の希薄化を抑制

取得後の価値向上（PMI）：管理機能を当社グループに集約してコストを適正化し、fonfunとの業務提携に基づくAI開発リソースで業務の自動化・効率化を進める。

※ 出典：中期経営計画「プロジェクト イマージュ」。

Copyright © Image Information Inc.

株主還元方針

1 エグゼクティブサマリー

2 2027年3月期 中間期業績

3 2027年3月期 通期連結業績予想

4 成長戦略・M&Aの推進

5 **株主還元方針**

Copyright © Image Information Inc.

株主還元方針 ― 株主優待制度の導入を検討

業績の黒字転換に目途が立ったことを受け、
株主の皆様への還元策として、株主優待制度の導入を検討しています。

株主優待制度の導入を検討

ご支援への感謝

構造改革の期間を支えて
いただいた株主の皆様へ

中長期保有の促進

当社の成長を長く見守って
いただける株主様を増やす

株主層の拡大

より多くの投資家に
当社を知っていただく

配当につきましては、業績の推移と成長投資（M&A）の状況を踏まえて検討してまいります。

※ 株主優待制度は検討段階であり、導入を決定したものではありません。内容・開始時期・対象となる株主様の基準は、決定次第速やかにお知らせします。

Copyright © Image Information Inc.

本資料の位置づけ・将来見通しに関する注意事項

本資料の位置づけ

本資料は、2027年3月期第2四半期（中間期）決算短信及び「2027年3月期通期連結業績予想の公表に関するお知らせ」（2026年11月12日公表）の内容を補足するものです。公表にあたっては、TDnetによる適時開示または当社ウェブサイトへの掲載により、全ての投資家に公平に提供します。

将来見通しに関する注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

参考値について

本資料には、第2四半期会計期間の損益（個別の中間会計期間から第1四半期を差し引いた値）や事業別の下期見込みなど、監査・レビューの対象外の参考値を含み、該当箇所にその旨を注記しています。本資料は投資勧誘を目的として作成されたものではありませんので、投資に関する決定は投資家ご自身の判断において行われるようお願いいたします。

お問い合わせ先
イメージ情報開発株式会社
取締役副社長 経営管理部長　中川 祐輝
https://image-inf.co.jp/contact/

Copyright © Image Information Inc.